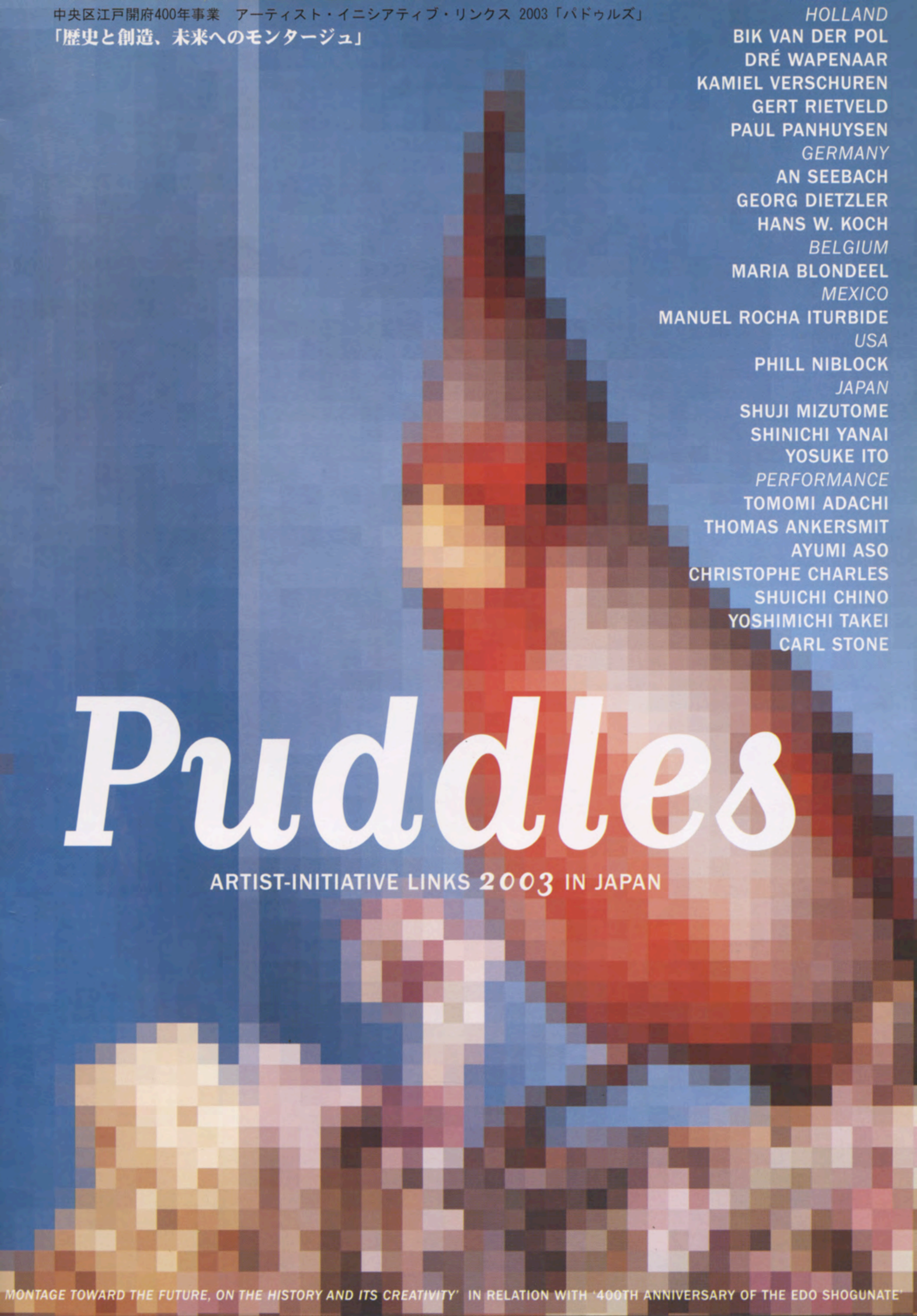


中央区江戸開府400年事業　アーティスト・イニシアティブ・リンクス 2003「パドゥルズ」

「歴史と創造、未来へのモンタージュ」

HOLLAND
BIK VAN DER POL
DRÉ WAPENAAR
KAMIEL VERSCHUREN
GERT RIETVELD
PAUL PANHUYSEN
GERMANY
AN SEEBACH
GEORG DIETZLER
HANS W. KOCH
BELGIUM
MARIA BLONDEEL
MEXICO
MANUEL ROCHA ITURBIDE
USA
PHILL NIBLOCK
JAPAN
SHUJI MIZUTOME
SHINICHI YANAI
YOSUKE ITO
PERFORMANCE
TOMOMI ADACHI
THOMAS ANKERSMIT
AYUMI ASO
CHRISTOPHE CHARLES
SHUICHI CHINO
YOSHIMICHI TAKEI
CARL STONE

Puddles

ARTIST-INITIATIVE LINKS 2003 IN JAPAN

'MONTAGE TOWARD THE FUTURE, ON THE HISTORY AND ITS CREATIVITY' IN RELATION WITH '400TH ANNIVERSARY OF THE EDO SHOGUNATE'

中央区江戸開府400年事業

Artist -Initiative Links in 2003 "puddles"

アーティスト·イニシアティブ·リンクス 2003「パドゥルズ」

「歴史と創造、未来へのモンタージュ」

Introduction

Foreword

Program

Artists Profiles

開催にあたって

おそらく動乱の時代として、そしてこの地においては経済危機の時代として記憶されるであろう今日の世界、芸術のあり方もまた、再考を迫られています。特に、アーティストとアート、芸術の発生する場と社会の関係において……この新たな提案として、私たちは、アーティスト自主運営組織のネットワークをベースとした、多国間の芸術交流プロジェクト 'Puddles' を1999年から連続開催してきました。これまで8ヶ国、24組織、60余名のアーティストが参加しています。

5周年にあたる今年は、会場として、横浜美術館アートギャラリー(神奈川)、CONCEPT SPACE(群馬)、ギャラリー・サージ(東京)に加え、東京都中央区の旧小学校「十思スクエア」を使用し、集合・合流展を行ないます。展覧会は、滞在制作によるインスタレーションのみならず、サウンドアート、パフォーマンスと多岐にわたっており、ジャンルを越えた交換は、来たるべき芸術の可能性に満ちています。そして同時に、国や年齢を越えた作り手・受け手、さまざまな人のかかわりのなかで、そうした場をつくることそのものが、社会と芸術の関係の新提案につながると考えます。

今年、江戸開府400年に私たちは、江戸からの歴史を現代、または未来につなげるべく解釈し「歴史と創造、未来へのモンタージュ」というテーマを掲げました。アートが発生する場を一から創出し、場の風景を変容させ、社会との関係を再提案すること……その意味でアーティスト・イニシアティブの考えは、「海上都市・江戸」が、埋立てによって一から形成されたことと呼応するのではないでしょうか。また、このエネルギーは、「国際都市・江戸」の、異文化を許容・吸収するところから生まれているとも言えるでしょう。今回、6カ国20余名のアーティストが本プロジェクトに参加。多国間の共演・饗宴をとおし、異文化理解を深め、これを新たなエネルギーに転化します。

さらに、「歴史都市・江戸」から場の意味を再考すること……これは現在のコミュニティーの問題とつながるでしょう。集合展会場である「十思スクエア」は旧小学校で、現在はコミュニティーセンターであり、さまざまなコミュニティーの問題が、時の経過とともに凝縮しています。「個」でも「全体」でもない……私たち日本人にとって今後問われる「組織」というテーマ。芸術におけるアーティスト組織の先見性を、モデルとして考察すること。ここでは、アートと社会を巡るコミュニティーについて、二回にわたり国際シンポジウムを開きます。

…… 'Puddles' におけるネットワーク交換と直接交換……展覧会プロデュース自体を実験的にとらえ、芸術のソフトウェアとハードウェアの新たな関係を示し、それが輻輳された作品によって示される……これは現実に、他ならぬ「未来都市・江戸」が、現在にモンタージュされたものとして現れることではないでしょうか。

末筆ながら本展覧会開催にあたり、ご支援・ご協力頂いた関係者、各団体、各企業ならびその他多くの方々に心より御礼申し上げます。

2003「パドゥルズ」ディレクター
W・キューブ・プロジェクト 伊藤洋介

本展に寄せて

アーティスト・イニシアティブ・リンクス2003「パドゥルズ」が6カ国20余名のアーティストの参加により、十思スクエアにおいて開催されますことを心からお祝い申し上げます。
江戸開府400年という祝祭の年に「歴史と創造、未来へのモンタージュ」をテーマとして多国間の共演・饗宴をとおし、異文化の理解を深めることは大変意義ぶかいものがあります。
この事業が大きな成果をあげますよう中央区民とともに大いに期待しております。

中央区江戸開府400年記念事業実行委員会
会長　竹内　誠

このたびもまた、多くのオランダ・アーティストが参加するパドゥルズ2003に際してごあいさつできることを大変喜ばしく存じます。
パドゥルズは1999年以降、年を追って参加者・観客を増やし続けており、展覧会、ワークショップ、レクチャーなど、あらゆる形式において、日欧アーティストの意見の交換と作品の発表のすばらしい機会を提供しています。
パドゥルズのような共同プロジェクトは、私たち2国間の友好関係を深め、強化する役割として非常に重要であり、私は、これら交流の可能性づくりに尽力しているパドゥルズの関係者に、心から謝辞を述べたいと思います。

駐日オランダ王国大使
E.F. ヤーコプス

パドゥルズのアーティスト達は、美術・音楽などのカテゴリーやジャンルを超えた作品を制作していますが、今回、場や空間を変え、さまざまな人々の手をかりることによって、それがどのように変化し新しいアートに生まれ変わるのか、興味がつきません。これまでの枠を超えた創造を続けるため、アーティスト自らが企画、参加、協力する姿勢に、心からの声援をおくるとともに、本展をより多くの皆様に楽しんでいただき、新たな交流が生まれることを願ってやみません。

ベルギーフランドル交流センター館長
ベルナルド・カトリッセ

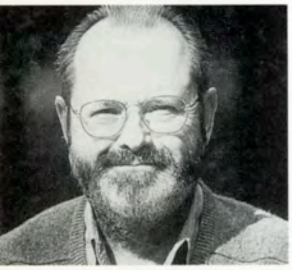
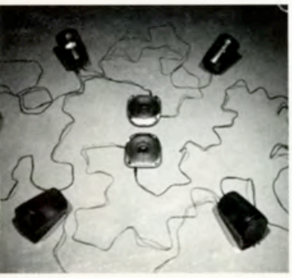
現在、世界を覆う情勢の中で、アートと社会のつながりを切り開こうとする活動に寄せられる期待には限りないものがあります。
その中でも、アーティスト自身が企画運営し、互いの国でのアーティスト・イン・レジデンスならびに展示を継続的に実現し、成功させているグループとして、W・キューブ・プロジェクトが挙げられます。私たちが「パドゥルズ」に初めてかかわったのは2001年で、ドイツ文化会館ではドイツ人アーティストの展示と、アーティスト組織の代表者のシンポジウムが開催されました。
2003年、「パドゥルズ」は5年目を迎え、これまでにも増して各方面の協力、参加を得て開催されますことは、私ども東京ドイツ文化センターにとって、この上ない歓びであり、そのご成功を心より願うものであります。

東京ドイツ文化センター所長
Dr. ウーヴェ・ニーチュケ

東京アメリカン・センターを代表し、この度の盛大なご成功に対し、参加アーティストを始め、W・キューブ・プロジェクトや「パドゥルズ2003」に携わるすべての方々に、ご祝辞を送りたいと思います。特に、ニューヨークの、ミニマル・ミュージックとインターメディア・アートで名高いフィル・ニブロックの今年度の招聘は、私たちにとっても大変喜ばしいところです。
今年は「江戸開府400年」であるだけでなく、芸術活動を社会に還元している、注目すべき試みの5周年にあたります。アーティスト・イニシアティブを通し、私たち2国がすでに共有し、後押ししているこのグローバルな関係づくりを、今回の文化イベントは、さらに推し進めることでしょう。

東京アメリカン・センター館長
ケン・モスコウィッツ

Program　プログラム

Performance & Concert　パフォーマンス&コンサート

◆公演日時

9月13日（土） — 13.Sept

オープニング・パフォーマンス

18：00〜18：30 パウル・パンハウゼン　Paul Panhuysen
19：00〜19：30 マニエル・ロッチャ・イトルビーデ　Manuel Rocha Iturbide
19：30〜20：00 ハンスW.コッホ　Hans W. Koch

9月14日（日） — 14.Sept

17：30〜 フィル・ニブロック　Phill Niblock
19：30〜 トーマス・アンカースミット　Thomas Ankersmit

9月15日（月・祭） — 15.Sept

17：30〜 マニエル・ロッチャ・イトルビーデ　Manuel Rocha Iturbide
18：30〜 カール・ストーン　Carl Stone

9月18日（木） — 1 8.Sept

19：30〜 パウル・パンハウゼン　Paul Panhuysen

9月19日（金） — 1 9.Sept

18：30〜 麻生アユミ　Ayumi Aso
19：30〜 足立智美/ハンスW.コッホ　Tomomi Adachi /Hans W.Koch

9月20日（土） — 20.Sept

18：30〜 武井よしみち　Yoshimichi Takei
19：30〜 麻生アユミ　Ayumi Aso

9月21日（日） — 21.Sept

17：30〜 武井よしみち　Yoshimichi Takei
18：30〜 パウル・パンハウゼン　Paul Panhuysen
19：30〜 千野秀一　Shuichi Chino

9月22日（月） — 22.Sept

19：30〜 足立智美　Tomomi Adachi

9月23日（火・祭） — 23.Sept

18：30〜 武井よしみち　Yoshimichi Takei
19：30〜 クリストフ・シャルル　Christophe Charles

Symposiums シンポジウム

第1部
「アートの発生の場と都市のコミュニティー」

2003年9月15日（月・祭） 15:00〜17:00

主要パネル：
若林幹夫／社会学・筑波大学助教授
豊田英男／中央区都市整備部都市計画課長
ロルフ・ザクセ（ドイツ）／写真研究
ビック・ファン・デ・ポル（オランダ）／アーティスト・元デュエンデ代表
司会: 浜田剛爾／国際芸術センター青森館長

このシンポジウムでは、アートと都市の歴史との関係について論じてきた研究者、公共空間に積極的にかかわるアーティスト、実際の都市計画事業に現場で関わっている行政官による討議を行います。
パネルの若林幹夫は、都市の諸問題を、神話や芸術作品（文学）から読み解いてゆく斬新な視点の社会学者であり、著書多数。ロルフ・ザクセは、人間の眼差しと社会の関連を写真から読み解く研究で、世界でも第一人者であり、オランダのアーティスト組織、アポロハウスの活動に携わっていた時期もありました。場の歴史や、コミュニティーとアートとの関係を、アーティスト、ビック・ファン・デ・ポルの具体的な活動事例や豊田英男による区の都市計画事業の実例など、アーティスティックな視点と行政サイドの視点とを重ねながら、現代の芸術と都市と歴史の関係について、積極的な意見交換を行います。

第2部
「アーティスト組織の可能性と社会への提言」

2003年9月21日（日） 15:00〜17:00

主要パネル：
日本：水留周二／ダブリュー・キューブ・プロジェクト代表
ドイツ：ゲオルグ・ディエッツラー／レイチェル・ハフェルカンプ・ギャラリー・ディレクター
オランダ：パウル・パンハウゼン／アポロハウス・ディレクター
ベルギー：マリア・ブロンディール／エクスペリメンタル・インターメディア・ゲント代表
アメリカ：フィル・ニブロック／エクスペリメタル・インターメディア・ディレクター
司会: 小川亮彦／筑波大学非常勤講師　比較文学

このシンポジウムでは、内外のアーティスト組織の代表が、それぞれの組織の成り立ちやプロジェクト事例を挙げながら、1960年代から現在までのアーティスト・イニシアティブ（主導）、アート・コミュニティーの歴史とその功績について討議。それを、今回の十思スクエアでのプロジェクトに重ね、その可能性を探ります。
パネルは、それぞれの国で組織を立ち上げ、国際的な芸術プロジェクト企画運営の実績があるオーガナイザーであり同時に、芸術形式の新たな展開に挑戦し続ける実験的アーティストでもあります。行政サポート状況や地域コミュニティーとの関わりも含め、ヨーロッパ、日本、アメリカで比較を行い、それぞれの差異と共通点から、今後のアーティストあり方と芸術の社会還元について、普遍的な提言を、ここ十思スクエアから発信します。

Artists Profiles プロフィール

《オランダ》

■リザベト・ビック+ヨス・ファンデポル　リザベト・ビック1959年オランダ、ハーレム生まれ。ヨス・ファンデポル1961年オランダ、アーネム生まれ。共にロッテルダム在住、「デュエンデ」メンバー。ビックは、84年〜99年まで代表を努める。
ビック+ファンデポルは、95年から「対話」をテーマにコラボレーション・ユニットとして活動を開始。同年に作品「キッチン」、「シャワーセット」を発表し注目される。実際の台所、シャワーボックスを寸分も違わず精妙に再現したこれらの作品は、彼らによれば、人々の対話、アイディア、経験の交換から始まる<変化と生成>を目的としたものであるという。様々なコミュニケーションによって自らに起きうる意識の変化自体が作品を規定してゆくのだと考える彼らは、その創作活動通じて、言語に値するコミュニケーション・メディアとしての作品形成を目指している。

1. Absolute Stockholm, Label or Life - City On a Platform

■ドレイ・ワーペナー　1961年ベルケン・エン・ローゼンライズ生まれ、ロッテルダム在住。「デュエンデ」メンバー。
シリーズ作品『テント／スタンド』で、数多くのユニークなテントを発表。野外用の「ファミリーテント」、海水浴用の「シャワーテント」、バーベキュー用の「BBQテント」に始り、新聞を読む為の「ニュースペーパー・キヨスク」、あるいは、木に吊りかかる大きな果実のような「ツリー・テント」、鳥の巣箱ほどの隠宅用の軽便テント「ネスト・ビバーク」など多種多様。これらの作品は、いずれもデザイン的に美しく完成されたオブジェのような外観を持ち、同時にテントとしての可動性も携えている。デザイン、建築、彫刻のすべての要素を含みながら<用と美の調和>を作り出しているこの作品は、テントの目的性に対してまったく逆の光を当てたものと言える。

2. Newspaper Kiosk

■カミエル・ヴァーシュレン　1968年生まれ、オランダ、ロッテルダム在住。「ファンデーションB.a.d」創設メンバー。
92年、ロッテルダム芸術アカデミー修了。91年、エラスムス交換留学制度にてフランクフルト芸術アカデミー（ドイツ）、92年、ポズナン美術アカデミー（ポーランド）に交換留学。同年、ドイツの都市計画ワークショップに参加。場の機能性、コミュニティーの生成など社会性のあるインスタレーションを主に制作。近年、ロッテルダムにおける多くのコラボレイティヴ・プロジェクトに参加している。

3. Openveld O.T.T

■ヘルト・リートフェルト　1960年生まれ、ロッテルダム在住。「デュエンデ」メンバー。
87年ロッテルダム芸術アカデミー卒業後、「実地踏査」と「オリエンテーション」をテーマに、人が理解・認識のために探求し、学ぶことができるような空間の構成を行っている。したがって彼の作品は、一定のスタイルを持ってはいない、ある時は、サウンド・インスタレーションであったり、またある時はパフォーマンスであったりと、場と条件、あるいは自身のアイデアがその都度、変容する。これは、作品機能が観客に一方的な意味を伝えるのではなく、見る側の能動性を拾い上げることを意図し、そのための構造作りとしてある。彼の提案は、あくまで観客にとって個人的な意味を見出すものか、または、それがつくられる可能性を目指すものであり、「経験」に基づく総合的な感覚を必要とする作品作りを目指している。

4. ANTWERPEN

■パウル・パンハウゼン　1934年ボルフハーレン生まれ、アイントホーヘン在住。
59年から作家活動を開始し、アーティスト活動と平行して美術館のキュレーターも努める。80年に「ヘット・アポロハウス」をアイントホーヘンに設立し、アーティスト、キュレーターとして実験的な芸術の支援と牽引的役割を果たす。代表作『ロング・ストリングス』は、82年から開始され、オランダ、アメリカ、ドイツ、日本など世界各地で発表された有名な作品である。展示空間に長いスチール弦と共鳴体を付設し、作者自らが弦を擦ることで空間全体を共振し合う音響空間へと変貌させる。インスタレーションとしても美しいこの作品は、美術、建築、音楽といった従来の範疇を脱融合するものとして、造形作家のみならず、数多くのサウンドアーティストに影響を与えている。

5. ピタゴラスの門
写真提供:国際芸術センター青森

《ドイツ》

■アン・ゼーバッハ　1965年生まれ、ドルトムント在住。94年より「キュンストラハウス」メンバー。2000年よりディレクターを努める。裁縫、ドローイングなど繊細な手仕事をベースとし、場所や状況を踏まえたインスタレーションを展開する。あたかもゲームのルール—相手、行為、遊具、遊び場などのように、展示会場のさまざまな状況をとらえ、ゲーム遊びにあるシリアスさと楽しみの両面を、アートの文脈で表現する。96年「ノマド・ランド」（キュンストラハウス・ドルトムント）、99年「A03」（WUK・ウイーン）、「自己作品のコレクション／ドキュメント」（エナジーギャラリー・ドルトムント）など、プロジェクトに多数参加。日本での最初の展覧会は、「ひとりのために／NOT general」（京都/大阪）で、豊嶋康子とのコラボレーションを行なう。

6. PW0025

■ゲオルグ・ディエッツラー　1958年生まれ、ケルン在住。
82年に木の葉や、花、芽、種子等を室内環境に合わせた立体作品を制作し、85年には、公園用の植物を用いたプロジェクトを展開。固定や保存のきかない材料を使用し、植物とその廃棄物などが織り成す空間を<発育／腐敗>の交差による立体的な環境芸術へと変容させる。92年からは、観光事業や世界経済状況と関係し合う自然をコンセプトに、従来の技法に加え、マルチメディア、パフォーマンス、写真を活用。97年には、パリの科学・産業・技術博物館でバイオテクノロジー環境芸術「オイスター・マッシュルームの栽培実験」を発表。現在、文化行政に関わるキュレーターでもあり、インターメディア・プロジェクトやコンサート等を手掛ける。

7. Self Decomposing Laboratory

■ハンスW. コッホ

1962年ハイデンハイム生まれ、ケルン在住。ケルン現代音楽協会、アンサンブル「buro fur konzert-padago giK」設立メンバー。ヨーロッパ各地でコンサートやパフォーマンス、メディアイベントを行う一方で、様々な年代の人を対象に現代音楽、実験音楽、即興音楽のワークショップやトレーニングも行っている。家電や日用品を独自に組み合わせることで生じる音、作動を用いる彼の手法は、システム、機能に隠れた物の側面を垣間見せることでそれらを異化する試みである。様々な使い方を実験する過程で発生する産物としての偶発的なパフォーマンスを拡張し発展させる彼の作品は、同時にサウンド・インスタレーションのカテゴリーそのものへの挑戦とも言える。

8. rendez-vous

8

《アメリカ》

■フィル・ニブロック

1933年インディアナ州生まれ、ニューヨーク在住。「EI/エクスペリメンタル・インターメディア」代表。インターメディアアートの先駆者として世界的に著名。60年代半ばから、MOMA、キッチン、ICAロンドン等、主要な美術館、ギャラリーでライブ・パフォーマンスを行う。以降、彼の作品は世界中で発表されている。映像(実写フィルム、イメージ)と電子音を用い、視覚と聴覚の共在的な空間を作り出すフィルの作品は、異なるメディア各々の性質を一定レベルに変換・複合し、同時にその効果から観客の知覚全体を刺戟しようというものである。アメリカ、ヨーロッパ各地での活動と並行して、85年から「EI」のディレクターを務め、93年には、ベルギーのゲントに「EI・ハウス」を設立し、実験的なアーティストを支援している。

9. installation by sounds and pictures of digital data

9

《ベルギー》

■マリア・ブロンディール 1963年ハーレ生まれ、ゲント在住。

93年からフィル・ニブロックとともにベルギーのゲントに「EI・ハウス」を共同で運営。85年より、インター・メディアの分野で活動を開始。複数のスライド・プロジェクター、コンピュータを用い、光りと観客との相互作用的なインスタレーションを発表し、インタージャンルで実験的な活動を行う。主なコンセプトは時間の経過であり、ヴィジュアル・アーティストとコンポーザーとのコラボレーションなども多い。また「EI・ハウス」の運営を通じて実験的なアーティスト活動のサポートを行っている。

10. Time Lapse: 48h

10

《メキシコ》

■マニエル・ロッチャ・イトルビーデ 1963年メキシコシティー生まれ、同市在住。

メキシコ大学で作曲を学んだ後、写真のワークショップに参加し、メキシコ、ブラジル、イタリアで写真展に出品。その後、電子音学、実験映像、サウンドアートに興味を持ちミルズ大学に進学。電子音学と作曲で修士号を取得した後、IRCAMにて研究者として勤務し、後にパリ第8大学にて教授として勤務。彼の作品の特徴は、日常の様々な音に関係しあい相互にコンテキストとの関係性を作り出すことにある。自転車を使用したサウンド・インスタレーション『リバイシクリング』では、精緻なサンプリングを基に、「量子論」「エントロピー理論」などを駆使し、大量廃棄が恒常化している先進国の社会的な問題を渾沌と不動の状態で表した。静止した自転車、動的なサウンド、この相反性がもらたらす新たなダイナミズムこそが彼の作品の重要なテーマである。

11. リバイシクリング

11

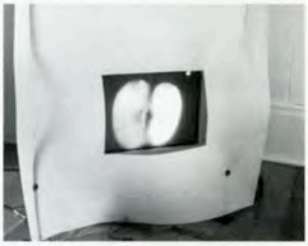
《日本》

■水留周二

1950年新潟県生まれ、さいたま市在住。「W・キューブ・プロジェクト」代表。

80年から作家活動を開始。主に木材の持つ有機的なエネルギーを独創的に体現する作品を発表し注目される。84年には「大谷地下美術展」を組織し、アーティストによる既成の展示空間を離れた実験的な展覧会をいち早く実施。近年、ベルギー、チェコ、オランダなどのレジデンスで、歴史、科学、生命、社会をテーマにしたインスタレーションを発表し、現代社会のアイロニカルな状況を鋭く抉ったものとして好評を博す。98年からは、W・キューブ・プロジェクトの代表として、芸術活動の様々な可能性を追求する一方、作品に関する批評テキストなど著作も多く、造形と言語両面による探究を進めている。

12. 沈黙の臓器

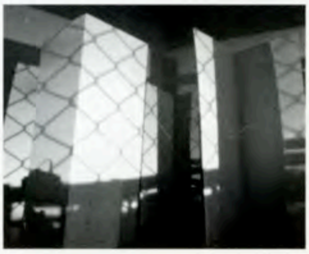


12

■伊藤洋介

1963年生まれ、東京都在住。87年、東京造形大学美術学科卒業。98年、「W・キューブ・プロジェクト」メンバーとして「パドゥルズ」のディレクターを努めると同時に、ニューヨークの55マーサーギャラリーのメンバー。98年に建物の部分写真を転写した厚紙を折り、立体化したユニットを集合させたインスタレーションを発表。〈記憶と記録〉をテーマにしたこの作品で、都市空間の重層性を現出。その後、それらの集合体に一方向から映像を照射し、陰影を浮かび上がらせたり、フィル・ニブロック、カール・ストーンのサウンドとのコラボ空間をつくるなど、ビジュアルとサウンドによる総合的な作品形成を目指している。

13. Between the laps



13

■箭内新一

1964年生まれ、京都在住。90年、東京造形大学美術学科卒業、92年、東京芸術大学大学院美術研究科・絵画専攻壁画修了。95年から97年まで、ロッテルダム芸術アカデミー大学院に留学、キュレーションを研修。その後、ヨーロッパや日本でサイト・スペシィフィック・インスタレーションやドローイング作品を発表し、場の固有性を体現する活動を行っている。99年には、「パドゥルズ」立ち上げ時のメンバーとして、日欧の架橋となる。そのほか、「ひとりのために／NOT general」(京都／大阪)など、展覧会のオーガナイズも手掛けている。

14. peep／light

14

Artists Profiles　プロフィール

■ カール・ストーン　1953年アメリカ、ロサンゼルス生まれ。東京、サンフランシスコ在住。
アメリカを代表する中堅の作曲家の一人。70年代から電子音楽の作曲を開始。80年代のパソコンの普及にともない、キーを叩くだけで多彩な演奏を可能とする「コンピュータ音楽」の寵児として一躍名を馳る。その後、世界中で、異なるジャンルの演奏家、美術家、舞踊家などの様々な表現者とコラボレーションを重ね、その都度、新鮮な作品を生み出している。キング・オブ・サンプリングと呼ばれる彼の音楽的特徴は、コンピュータ・ゲーム音を取り入れたり、飲食店名を作品タイトルに使うなど、いわゆるポップな指向性にある。これは身の回りの様々なものを積極的に作品に組み込むことで、アートを日常の楽しみとともに位置付ようというものである。

Carl Stone

■トーマス・アンカースミット　1979年オランダ、ライデンドロップ生まれ。ベルリン在住。
2001年から、ドイツ、スイス、オーストリア、イギリス、アメリカ、日本など各地でサウンド・パフォーマンスを展開。ある時はサックスによる即興演奏であったり、またある時は、広いホールに張られた金属弦を叩きながら移動するというパフォーマンスのビデオ録画をインスタレーションとして発表するなど、多彩な表現スタイルを持つ。いずれもサイト・スペシフィックで、録音・録画による再現の不可能性を前提とし、記録としての一般性では表現しきれない、アクション―偶発―変化といった現象を伝えることで、よりダイレクトなメッセージを生み出している。

Thomas Ankersmit

■ クリストフ・シャルル　1964年フランス生まれ、東京在住。
サウンドアーティスト。現代芸術における理論的・歴史的な研究を行いながら、内外空間を問わずインスタレーション及びコンサートを行い、それぞれの要素のバランス、独立性及び相互浸透を追求している。山口勝弘、Henning Christiansen、石川ふくろう、Salvanilla等とコラボレーション多数。CD:「undirected」シリーズ（Mille Plateaux, Ritornell, Subrosa)、他コンピレーション多数（CCI, Thrill Jockey, ICC, Code, Subrosa,Cirque, ATAKなど)Public Art:大阪市住まい情報センター（1999)、成田国際空港第一ターミナル中央アトリウム［cosmos］(2001)

Christophe Charles

■ 千野秀一　1951年福島県生まれ、東京都在住。
70年代からキーボード奏者、編曲者として「ダウンタウン・ブギウギバンド」「ワハハ」「サカタオーケストラ」「グランド・ゼロ」等に参加。80年代には映画、演劇、ダンスなどの伴奏音楽を手掛け、韓国の打楽器グループ「サムルノリ」を日本に紹介し共演する。90年代には、コンピューターとシンセサイザーを使った実験的な作品、音楽の為のソフトウェアの制作を開始。96年にジーベック・ホールでソロ・パフォーマンス『揺り椅子』行い、97年にギャラリー・サージでコンピュータを用いた相互作用的なサウンド・インスタレーション『蟲めづる』を発表するなど、テクノロジーを駆使して<オブジェクト>の概念の拡張を推めている。

Shuichi Chino

■ 麻生アユミ　長野市在住。
舞踏家。1993年よりトータル・シアター二瓶館に参加し、その後の同館による国内外全ての公演に出演。97年、パリ・バスティーユ街の路上で パフォーマンスWalking project『Buddha』などをゲリラ的に行う。2000年には、ソロ作品『虚時間／imagina time～ヨシュアの歩行』を発表し注目される。ひたすらゆっくりと歩き続けるこの作品で、彼女は表現と行為の境界線上に起きる均衡の持続によって、一般的な時間性に変化をもたらすと同時に、観客を〈歩行の記憶〉へと誘う。現在、「Art Evolution Network1:1」のメンバーとしても活動を行う。

Ayumi Aso

■ 武井よしみち　1953年北海道生まれ、東京都在住。
84年よりソロ・パフォーマンス活動を開始。身体からの視点を基に、<行為>と<物>が対峙することで現れる身体性をテーマとした作品を発表。作品『Blowing The wind』は、鉄パイプやチューブを吹くことで呼吸から音への変換を試み、91年「Office Trip」や94年「Dancing Race」では、ひたすら足踏みを続ける行為を、装置を通して、数値に置換えるパフォーマンスを創作。96年よりブルーボウルカンパニーと共同で電球と光センサーを使用した『大欠伸・Big Yawn』シリーズを展開。近年は、視覚的な身体表現に加えて、行為から生まれる<音>を用いた創作活動を行っている。

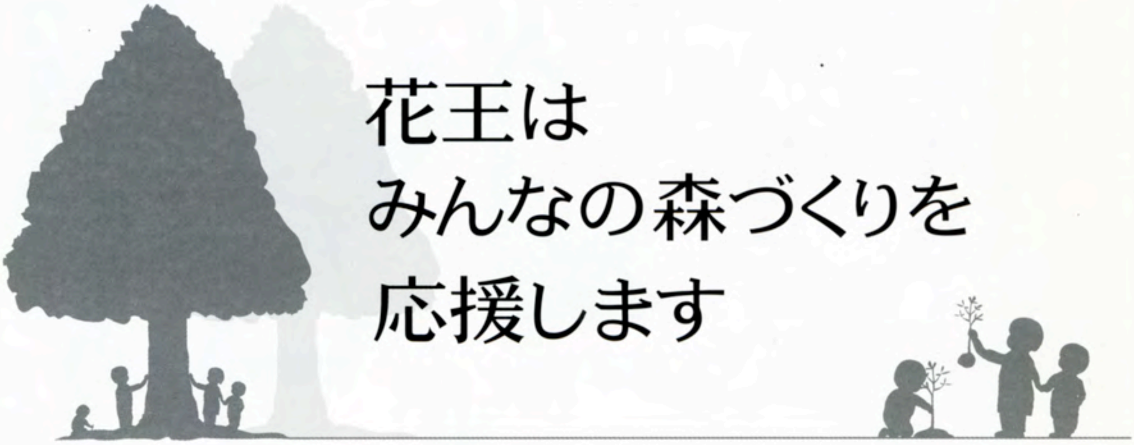
Yoshimichi Takei

■ 足立智美　1972年生まれ、東京在住。
音楽家。声やコンピュータ、自作楽器のパフォーマーとして活動。即興演奏やコラボレーション作品をライヴハウス、コンサートホール、劇場、ギャラリーなどさまざまな場所で発表。日本ではほとんど唯一の音響詩の演奏家でもある。またコンサートのプロデュースも多数。2000年からダンサーの山田うんとのユニット「VACA」を開始。年間数十回に及ぶ公演活動を日本各地及びヨーロッパ、アメリカで行い、その間、批評家として芸術全般に関する文章を新聞、雑誌に多数寄稿。CD:ソロ「ときめきのゆいぶつろん」、足立智美ロイヤル合唱団「ぬ」。

Tomomi Adachi

花王

花王は
みんなの森づくりを
応援します

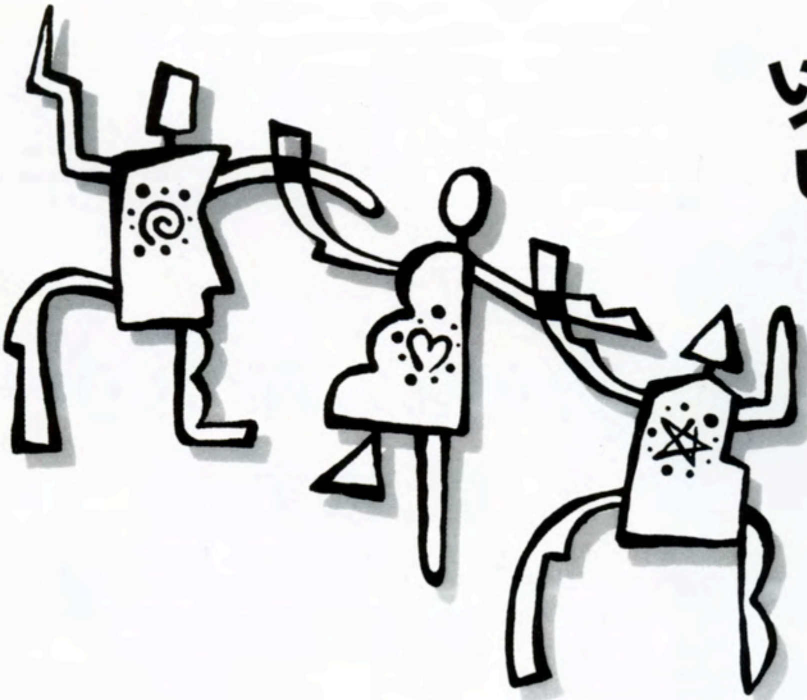


かけがえのない緑を子どもたちに残したい、
という願いを込めて。

花王が全国のボランティア団体や
NPOなどといっしょに取り組んでいるのが
「みんなの森づくり活動」です。
これは花王のつめかえ用商品の売上げの一部で、
(財)都市緑化基金を通して
各地の緑化活動を支援するものです。
洗剤などのつめかえ用は容器包装の材料を減らし、
ごみの削減に役立っています。
子どもたちの未来のために、
いまできることから少しずつ——花王の願いです。

☆詳しくはhttp://www.kao.co.jp/comp/へ。ご意見もお寄せください。〒103-8210 東京都中央区日本橋茅場町1-14-10 花王株式会社「みんなの森づくり」W

いっしょにワクワク、いっしょにドキドキ。



もっと、たくさんの感動を応援したい。
これもトヨタの願いです。

トヨタは、全国で21年900回を数えるトヨタ コミュニティコンサートなどアマチュア音楽活動をはじめ、美術、演劇など幅広い分野で地域に根ざした文化活動を応援しています。みんなが、もっとワクワク、ドキドキするために、トヨタは、いっしょに歩んでいきます。

TOYOTA

SHISEIDO

ウィークリーマンション東京

都市滞在の新しいカタチ。

都市でのご宿泊・滞在を、もっと快適に、もっとリーズナブルに…。
おかげさまで、私たち「ウィークリーマンション東京」は3周年を迎え、そんな新しい都市滞在のスタイルを提案し、
多くの皆様にご利用いただいております。首都圏を中心にビジネスでの滞在をご希望の方には、ウィークリーマンション東京を。
短期宿泊を望まれる方には、ホテルタイプの施設を。さらに特別なゲストをお迎えする際にはグレード感豊かなサービス・アパートメントを
お客様のニーズに合わせてしなやかにお応えできる施設を充実させています。
これからも、中長期宿泊施設のリーディングカンパニーとして、定評ある室数の多さの拡充を図るなど、一層の努力を重ねてまいります。
「ウィークリーマンション東京」がご提供する各施設をどうぞご活用ください。

Weekly Mansion
TOKYO

サンヨンサンヨン　サンキュウサンキュウ
03-3434-3939

ホームページアドレス（iモード対応）　東京・横浜・川崎・大阪・札幌に40施設以上。
www.wmt.co.jp

1991
INUI FUSION
CRAFT NETWORK

工房主義。

設計者の意図を大切にロートアイアン製品を
デザイン・制作いたします。
あなたの工房としておつき合いください。

ORIGINAL
DESIGN

ポスト、門扉、フェンス、手すり、
インターフォンカバー、サイン等
遊び心あるオリジナルデザイン
も揃えております。

自社開発制作の
オリジナルポスト

イヌイフュージョン株式会社
本社（工房・ショールーム）
〒340-0013 埼玉県草加市松江2-11-1
Tel.048-931-7399（代表）Fax.048-931-4597
www.inuifusion.co.jp

芸大・美大受験
河合塾美術研究所 東京 三鷹

KJ championship 大賞作品

〒180-0006 東京都武蔵野市中町２－１－７
☎0422-51-2581 free dial 0120-327-414
http://www.kawai-juku.ac.jp/geidai/

GENEROUS
DANGEROUS
MARVELOUS

Artisan,Inc 株式会社アルチザン

○address: DKK-building8F,4-10-7Asakusabashi,Tokyo111-0053,Japan
○telephone:03-3863-3341
○facsimile:03-3863-3343
○e-mail: artisan@arti.co.jp
○hp: www.arti.co.jp

Artisan
アルチザン

GENEROUS
DANGEROUS
MARVELOUS

Artisan,Inc 株式会社アルチザン

○address: DKK-building8F,4-10-7Asakusabashi,Tokyo111-0053,Japan
○telephone:03-3863-3341
○facsimile:03-3863-3343
○e-mail: artisan@arti.co.jp
○hp: www.arti.co.jp

THANKS

協賛 SPONSORS

花王
TEPCO
TOYOTA
SHISEIDO
INUI FUSION
YOMOGI
Weekly Mension TOKYO
河合塾美術研究所
SensAble technologies
Artisan

協力 COOPERATORS

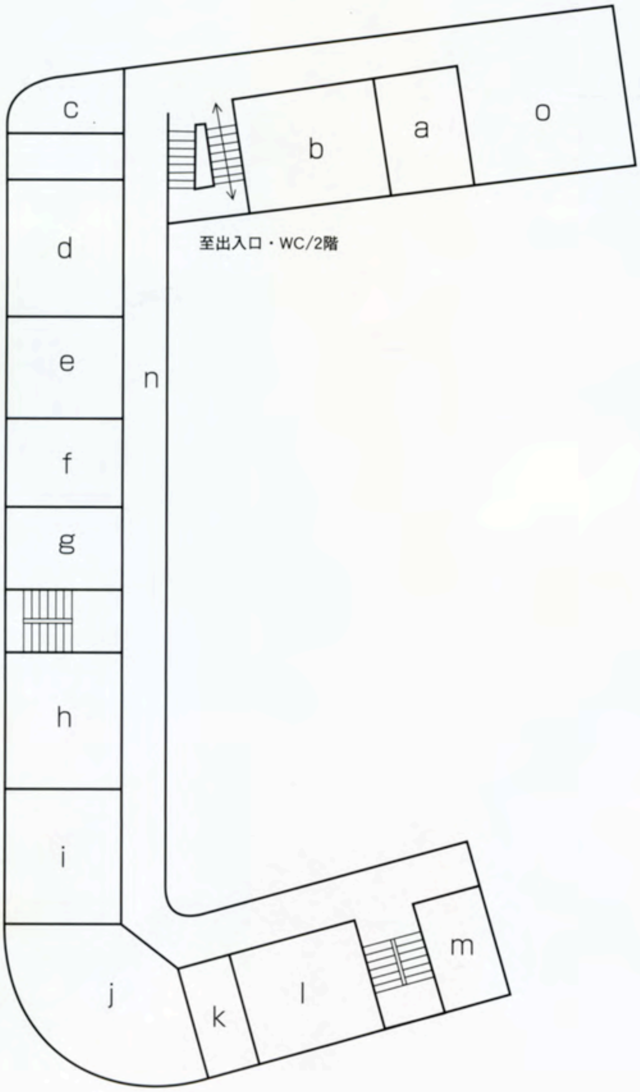
三菱電機株式会社
Victor・JVC
東陽テクニカ
KENWOOD
EPSON
三菱レイヨン
株式会社 中川ケミカル
TOA株式会社
Asahi アサヒビール(株)
ip
株式会社オストリッチダイヤ
住友生命
東芝ライテック株式会社

助成 GRANTS

芸術文化振興基金
TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT 東京都
国際交流基金 The Japan Foundation
Mondriaan Stichting
Met steun van de Vlaamse overheid
COMMUNAUTE FRANCAISE DE BELGIQUE
CONACULTA

(社)企業メセナ協議会認定

展覧会場案内



a.マニエル・ロッチャ・イトルビーデ Manuel Rocha Iturbide
サウンド・インスタレーション

b.リザベト・ビック+ヨス・ファンデポル Liesbeth Bik + Jos van der Pol
インスタレーション

c.ヘルト・リートフェルト Gert Rietveld
インスタレーション

d.フィル・ニブロック Hans w. Koch
インターメディア・アート

e.ハンス W.コッホ Phill Niblock
インスタレーション

f.ゲオルグ・ディエッツラー Georg Dietzler
インスタレーション

g.水留周二 Shuji Mizutome
インスタレーション

h.マリア・ブロンディール Maria Blondeel
サウンド・インスタレーション

i.ドレイ・ワーペナー Dré Wapenaar （休憩室）
インスタレーション

j.パウル・パンハウゼン Paul Panhuysen
サウンド・インスタレーション

k.伊藤洋介 Yosuke Ito
インスタレーション

l.カミエル・ヴァーシュレン Kamiel Verschuren
インスタレーション

m.アン・ゼーバッハ An seebach
インスタレーション

n.箭内新一 Shin-ichi Yanai
サイトスペシフィック・インスタレーション

o.シンポジウム、パフォーマンス

中央区江戸開府400年事業
Artist -Initiative Links in 2003 "puddles"
アーティスト・イニシアティブ・リンクス2003「パドゥルズ」
「歴史と創造、未来へのモンタージュ」
会場　十思スクエア（東京都中央区日本橋小伝馬町5-1）
期間　2003年9月13日（土）~9月24日（水）

企画制作　W³/ダブリュー・キューブ・プロジェクト
水留周二　伊藤洋介　松野 浩　天野豊久　徳田智子
梶原拓生　上野能孝　石井 弓　圓山理晃　長谷川哲夫
渡辺千恵子　酒井信一

ディレクター　伊藤洋介
サブ・ディレクター　梶原拓生
会場設営　松野 浩
表紙デザイン　サッホー・パンハウゼン　Studio Vrijdag
編集デザイン　酒井信一
印刷　ササベ印刷株式会社
発行　W³／ダブリュー・キューブ・プロジェクト

事務局
〒185-0024　東京都国分寺市泉町1-15-6　伊藤方
TEL/FAX　042-328-4445
E-mail:　itoy@wta.att.ne.jp
Website:　http://puddles.itodenwa.com

MAIN VENUE jusshi square
DATE preparation from september 1 to 12
THE PRESENTATION from september 13 to 24
OPENING september 13, 2003

design: www.studiovrijdag.nl

C/O ITO, 1-15-6 IZUMI-CHO, KOKUBUNJI-SHI TOKYO 185-0024 JAPAN, T/F: +81 (0)42 328 4445 E: itoy@wta.att.ne.jp